

# マザーレイクゴールズ(MLGs) に係る取組状況について

# マザーレイクゴールズ(MLGs)とは

マザーレイクゴールズ(MLGs)とは、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会の実現を目指す目標(ゴール)であり、「琵琶湖版のSDGs」



**Mother Lake Goals**

変えよう、あなたと私から



- ✓ 令和3年7月1日(「びわ湖の日」40周年記念日)に策定
- ✓ 琵琶湖を中央に配し、周囲には円形の中に13のゴールカラーを配置
- ✓ 円形は琵琶湖を取り巻く湖国・滋賀、そして地球を表現している
- ✓ 「琵琶湖は暮らしを映す鏡」「琵琶湖は地球環境を見通す窓」であることを表し、琵琶湖・滋賀から世界を変えるための目標であることを示している

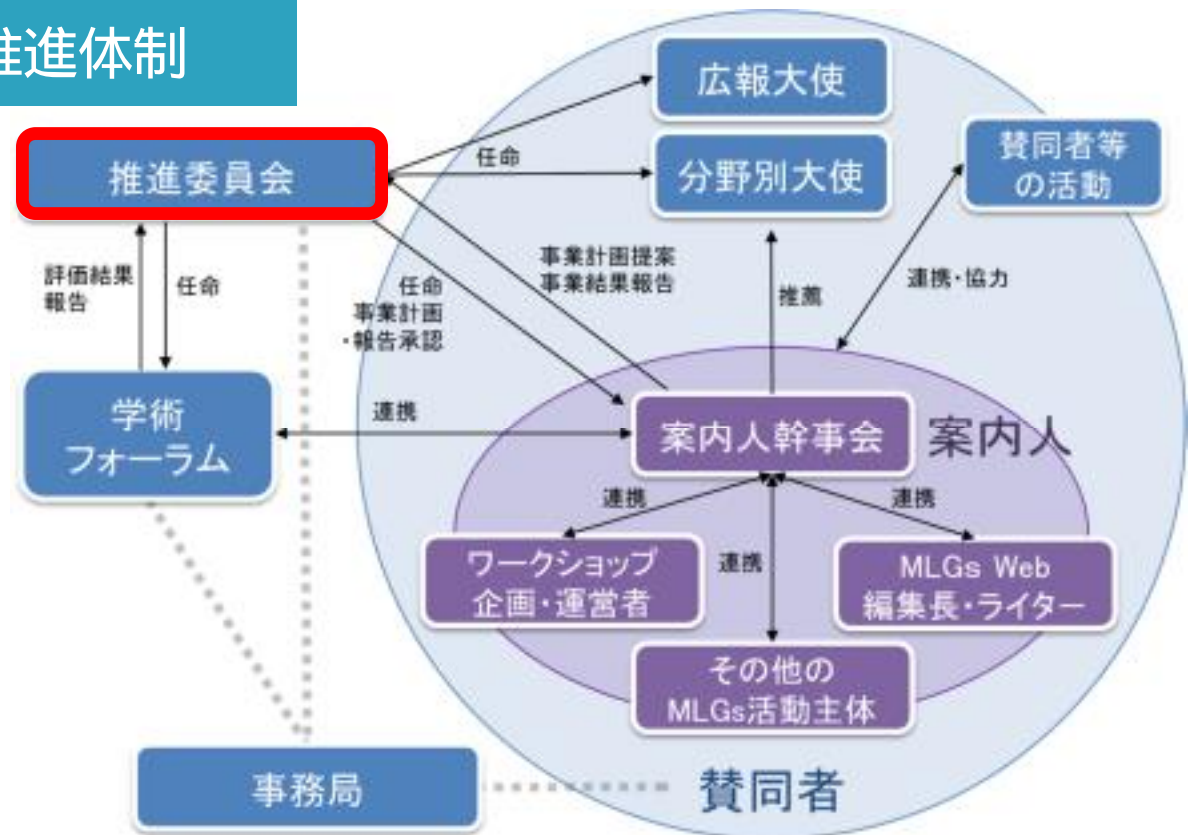
# マザーレイクゴールズ(MLGs)の推進体制

- ✓ SDGsの視点から見ると、琵琶湖を通じてSDGsをアクションまで落とし込む仕組みがMLGsであり、MLGsの取組はSDGsの達成に貢献するもの
- ✓ マザーレイクゴールズ(MLGs)からの視点で見ると、琵琶湖を通じて、県民等多様な主体による活動がSDGsに繋がっていることを発見する仕組み



## マザーレイクゴールズ(MLGs)の推進体制

- ✓ **MLGs推進委員会**は、今回の中間評価や重要事項等にかかる**意思決定機関**
- ✓ 学術委員から成る「学術フォーラム」を設置し、毎年、MLGs評価報告書を作成・公表
- ✓ 案内人の中から案内人幹事を選出し、ワークショップ等の事業の企画・取組を総括する執行機関として、「案内人幹事会」を設置
- ✓ MLGsアジェンダに基づき、MLGsの推進に向けた組織である「MLGs推進委員会」の運営は、現在、**県(琵琶湖保全再生課)**が担っている



# MLGsに係る令和7年度の取組実績

令和7年度のMLGs推進事業では、「ひろげる」、「つなげる」、「ふかめる」3つの取組を重点事項に事業を実施

## ひろげる

2026/4/1時点

### 賛同者数

1,974者

個人 団体/企業等

25% 75%

- ◆ 賛同者、ロゴマーク利用は継続して増加
- ◆ 認知度は27%程度で横ばい

### 情報発信

MLGs WEB等掲載 107回  
YouTube配信 11回

月間ページビュー数  
39,900 /月

大阪・関西万博(8/27-29)  
TEAM EXPO(9/19-21)  
フューチャーライフエクスペリエンス(9/23-25)



ワークショップ体験者

363人

延べ参加人数

72,000人

第20回世界湖沼会議(7/21-25)  
(オーストラリア)



会議参加者

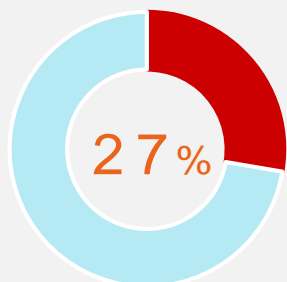
322名

27か国

参加セッション  
(主催含む)

4セッション

### 認知度



令和7年度 県政世論調査

### ロゴマーク利用

383件



(株)平和堂、(株)ファミリーマート、(株)ローソン  
「びわ湖の日」を記念した特別商品



読賣テレビ放送(株)  
鳥人間コンテストスタッフTシャツ

## 取組の 成果

### 発信力の拡大とブランド確立

- ✓ 「ローカルSDGs」として **国際的な共感** の獲得
- ✓ SDGsに関心のある企業や自治体、教育機関との新たな接点を創出

# MLGsに係る令和7年度の取組実績

## つなげる

- ◆ 賛同者間の取組を共有
- ◆ 個々の活動同士をつなげ、新たな展開が生まれる機会を創出

### みんなのBIWAKO会議

参加者数  
370名

出展団体・企業数  
35社

世界湖沼の日に開催(8/27)  
「みんなのBIWAKO会議 / COP4」



✓ ブースセッションで  
新たなつながり創出

## ワークショップ

共催・連携含む  
41件

延べ参加者数  
4,007人

滋賀県SDGs事業こどもBASEとの連携ワー  
クショップ(3/4)



- ✓ こどもBASEとの連携し、子ども向けMLGsビンゴゲームを制作
- ✓ 学童施設において遊びながら琵琶湖の未来を考えるワークショップを連携して実施

案内人等によるワークショップ



## 取組の 成果

### 多様な主体の参画拡大とネットワーク強化

- ✓ MLGsを切り口として、多様な主体が緩やかにつながる場を構築
- ✓ 企業・NPO・大学・若者世代が参画

# MLGsに係る令和7年度の取組実績

## ふかめる

- ◆ 活動に取り組んでいる層に対して、さらに取組が加速するように協力・支援

### 依頼講演

学校・企業での講演  
54件

#### 学校、企業等と連携した講演



光泉カトリック中学校での授業

#### 学校授業への広がり

- ・ 県立伊香高等学校での導入(11/4、18)



- ✓ 「持続可能な社会づくり」というMLGsを教材に、地元の地域資源を活用したツアープランを提案

### 環境学習

授業での実践  
16件

#### しが環境教育研究協議会(7/31)



- ✓ 環境教育の指導にあたる教員向け研究会にて「MLGsとのつながりを意識した環境学習」をテーマとして設定
- ✓ 県内小中高の教員100名が出席

#### 環境学習教材の活用



道徳の教科書(中学3年生対象) MLGsツーリズム学習BOOKでのMLGsの取組紹介  
(令和7年3月発行「中学道徳3」教育出版)



MLGs学習動画

## 取組の成果

### 共感から実践へ - 行動変容の芽の創出

- ✓ MLGsを「知っている段階」から、具体的な「行動を起こす段階」へと進展
- ✓ 学校・企業での自主的取組が多数展開

# MLGsに係る令和8年度の取組予定

## 現状・課題

- MLGsの認知度は、27%程度で横ばい傾向。
- MLGsの推進により、琵琶湖や琵琶湖に根差す暮らしに向けたアクションに繋げていくことが重要
- MLGsの目標年である令和12年(2030年)に向け、MLGsの更なる推進が必要。

R3 R4 R5 R6 R7 **R8** R9 R10 R11 R12(2030年)

MLGs策定

中間評価・取組の加速化

ポストMLGs

令和8年度(2026年度)は、令和3年(2021年)7月のMLGs策定から5年目の中間年

- 1 目標やこれまでの取組に係る中間評価
- 2 中間評価も踏まえた2030年に向けた取組の加速化
- 3 ポストMLGsの検討開始に向けた準備

## 1 中間評価

13のゴールについて達成状況の評価

これまでの取組の成果や課題を整理し、今後の効果的な推進方策を検討

評価結果を分かりやすく整理し、SNS等で公表

## 2 取組の加速化

みんなのBIWAKO会議の開催  
(8/27世界湖沼の日)

- ・「世界湖沼の日」イベント(同日開催予定)と連携
- ・特に若年層(中高大生等)の参画機会を確保

多様な層を対象としたワークショップの開催

- ・幅広い分野(森林、CO<sub>2</sub>、経済、生物多様性等)のイベント等と連携したワークショップ など

SNS等を活用した効果的な情報発信

- 「びわ活」との更なる連携

## 3 ポストMLGsの検討開始に向けた準備

MLGsの中間評価結果や、ポストSDGsの国内外の動向等も踏まえ、ポストMLGsの検討の開始に向けた準備



Mother Lake Goals

# 中間評価の方針

マザーレイクゴールズ推進委員会において、MLGsの策定からこれまでを振り返り中間評価を行う。目標年である令和12年(2030年)に向け、これまでの取組およびゴール達成に向けた状況を評価し、MLGsの更なる推進やポストMLGsについての検討開始に向けた準備を行う。

## (1) MLGsの学術的視点における評価 【ゴール指標に対する評価】

- 13の各ゴールの達成に向けた、5年間を総じた学術的な結果(2030年のゴール達成に向けた現状)を整理する。



学術フォーラムによる各ゴールの評価(2025年)  
六角形の色は状態、矢印は傾向を表す

## (2) MLGsの取組における評価 【取組に対する評価】

- これまでのMLGs推進の取組について振り返り、成果と課題について整理する。
  - 定量的な評価指標(例)
    - ・ MLGsの認知度
    - ・ 企業等によるロゴマーク利用数
    - ・ 賛同者数 等
  - 定性的な評価指標(例)
    - ・ 繋がり・集まる場(みんなのBIWAKO会議)を形成できたこと
    - ・ 国際発信・国際連携の事例
    - ・ 賛同者による個別の取組、ロゴマーク利用例
    - ・ MLGsワークショップによる取組の広がり の具体事例

## (3) 今後の方針の整理

- 中間評価を踏まえた令和9年度以降の取組方針を決定する
- 取組方針を踏まえ、令和9年度からの事業内容を整理し、MLGsに係る取組をさらに推進する
- 中間評価の結果や、ポストSDGsの国内外の動向等を踏まえ、ポストMLGsの検討の道筋を示す